慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	本庄栄治郎著 経済史研究
Sub Title	
Author	瀧本, 誠一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.7 (1920. 7) ,p.1022(146)- 1024(148)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200701-0146

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

を執りて讀者を煩はしたることと著者に對して盲評を加へたる罪とを深く著者と讀者に對して謝するものである。

（加田忠臣）

本庄榮治郎氏著　經濟史研究

菊版五九四頁定價四圓五十錢
京都弘文堂書房發行

我國法制史の老大家としては穗積（陳重）有賀（長雄）等の諸先生を始めとして、既に學界に多大の貢献を爲したる者、其人に乏しからず、殊に最近此の方面の研究に沒頭して、前人未到の域に馳騁する者は東には中田薫君あり、西には三浦周行君あり、共に偉大の精力家として、年々歳々頻りにその研究の結果を發表せらるゝを見る、蓋又盛なりと云ふべし。

然るに我か經濟史の研究に至りては、其の先驅者なる福田河上兩君は今や全く其の方面を變へて他の領土に移り、始終孤壘を守つて苦節を改めざりし内田銀藏君は不幸にして、昨年既に白玉樓中の人となられ、我國經濟史界の傳燈、其れ將た消滅に歸せんとするの折柄、圖らずも新進有爲の本庄榮治郎君西方の一隅に現はれ出て、既に卓然と斯界に獨壇の地歩を占むるに至りしは、所謂空谷の足音にして、我か經濟史研究者の爲め大に人意を强ふするに足るものなきにあらず、乃ち彼等が君の著作の發表に嘱望すること、大旱の雲霓に於けるが如くなるは固より偶然にあらざるのである。

然れとも今回新たに刊行せられたる「經濟史研究」は必すしも嶄新の學説を説きなるものにあらず、又必すしも卓拔の意見を述へたるものにあらず、其の學説に就て之を批評し、其の意見を取つて品隲すれば余の意に滿たざる所二三に止らざるのである、現に書中の或る問題に關しては往年余が在西のとき親しく君に對して議論を上下したることありしも、君には自ら君の所信あり、斷然その初説を執つて動かざりしは、當時余の頗ふる敬服したる所である、昔し水戸の碩學栗山潛峰保建大記を著はし、神器の所在を以て帝位の正僞を証するの説を唱ふるや、同僚三宅觀瀾その説の不當を鳴らし、常に相互に論爭して共にその主張を抗げざりしが「君子は和して同せず」の金言を守つて、觀瀾と潛峰とは其の交友の情誼、愈々益々親厚にして、終生兄弟も及はざるが如くなりしは、學界の美談とする所なるが、余の本庄君に於ける又實に斯くの如き思を爲さずんばあらず、況んや君は我が經濟史上最も至難とする新方面に向つて大膽に開拓の犁鍬を進め、以て此の一大著作を完成せらるゝ迄に許多の好資料を收集せられたるに至つては、其の説の異同に拘はらず誰れか君の努力の偉なるに驚かざる者あらんや。

本書十篇は如上努力の結果に成れるもの、篇々皆悉く有益の記事にして、何れも學界を裨補すること鮮少にあらざるべきも、殊に君の最も得意とする所は恐らくは第四篇德川時代の米問題と第十篇西陣研究との二篇なるべし、後者は君の先著「西陣研究」の補稿と見るべきものにして（自序に依る）前書の拾遺に過ぎざるが如くなるも、其の實此の一篇だけでも、他人に望むべからざる大著作にして、此特種の問題を研究するには前書と併せて欠く可らざる永久的の價値を有するものである、前者即ち米の問題は君が今日尚ほ熱心に調査を遂けつゝあるの問題にして、何れ近き將來に於て更らに又何等かの題目の下に、その結果を發表せらるべきも、而かも此の問題は君が豫ねて最も深く研究し居らるゝ所なれば、本書第四篇は特に精讀に値ひするも

のなるべしと思はる。

余も亦曾て少しく思ふ所あり、我國の經濟思想史を研究するの傍、指を經濟史に染めたることなきにあらざりしも、晩學老衰、日暮れて途遠し、その事業の成否始んと豫期すべからざるを知る、今本庄君の新刊書を接手して轉た感慨に堪へざるものあり、敢て一言所感を記して妄評に代ふ、多罪多罪

瀧本博士著「經濟一家言」

瀧本　誠一

岡文堂發行菊版八七四頁
定價金六圓五十錢

吾人が常に遺憾に感ずるところは我が國經濟學史及び經濟史の研究甚だ遲々たることなりとす。瀧本博士其の絶大なる精力を以つて多年此の種の研究に沒頭せらる。其の研究の成果は先に「日本經濟叢書」として世に現れたり。此の難事業を完成せられたる博士の努力に對して吾人は感謝の辭を知らざるなり。然るに今又博士多年の研鑽をば集蒐し、「經濟一家言」と題して公にせらる。特に一言なかるべからざる所なり。

本書に收錄する所「既往數年間に涉る論文を集めたるものなれば、全書を通じて系統的に學説を述べたるものにあらず。」（本書序）故に經濟史あり、學説あり、政策あり、ゆくとして可ならざるはなけれども、特に博士得意の壇上たる日本經濟學史の研究に於いて吾人に敎ゆるところ極めて大なり。而も「殘色闇澹たる故衫を補綴し、新らしき美觀を裝ふて顧客を迎ふるが如きは、」博士の敢てせざる所なれば、從つて博士思索の變遷を知るべきよすがともなり、一層興多きを覺ゆるなり。

本書全編三十四の論文よりなれるが、日本經濟學史に關するもの十四。其の重なるものを擧ぐれば、「德川時代の經濟學説に就いて」「京都の經濟學説」「大阪の經濟學説」「熊澤了介の經濟學説」「支那及び日本の人口論」「德川時代に於ける重農の意義」及び「日本經濟學説の要領」等なりとす。博士の學説を研究せらるゝに當つてや、其の採らるゝ態度を見るに、「人間の性情は古今東西に於て大なる差違あることなし、同一樣の時代に於ける學説は我と彼と又大なる徑庭あることなくして、略々其の軌轍を同ふすることあるは之を歷史に照らして歷々と徵すべきなり、故に古を以て今を論ずるは非なると同時に今を以て古を評するも亦不可なりと爲さゞる可からず」となす。從つて「舊時代に於ける學説の眞價を定めんとするもの、固より深く其の時代の傾向と周圍の事情とを看察して公平の判斷を下すべきのみ、時代の眞相を知れば全く無意味なるが如き學説にして、頗ふる多大なる趣味を有することあるを見出すべく、時代の眞相を知らざれば最も重要なる學説も亦輕々に看過し去る」恐れあり。（本書七〇四頁）これ吾人の全然同意することろにして、博士の敎示せらるゝ所を唯々遵守せんと欲するのみなり。余は此の説に服するが故に博士が社會政策の根本的觀念は仁にありとなし、「社會政策に反對する者は仁政に反對し、忠恕慈愛を否認する者にして、桀紂、ニロ、カリギュラの如き狂者の外は之なき筈なれば、社會政策が古代より何くの邦國にも行はれたることは、寧ろ當然のこと」なりとせらるゝ論斷に對しては俄かに首肯し得ざるなり。現今所謂社會政策と稱するものは古代行はれたる絶對服從の仁政とは其の趣きを異にせるものゝ如し。故に社會政策を否定する者必ずしも桀紂、ニロ、カリギュラたらず、將た又古の仁政今日